

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472602711
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい
訪問調査日	平成20年3月21日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472602711
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい
所在地	229-0003 相模原市東淵野辺1-22-14 (電話)042-750-5812

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年3月28日

## 【情報提供票より】(平成20年3月14日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・(平) 17年2月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	人	常勤	人, 非常勤	人, 常勤換算	人

### (2)建物概要

建物構造	RC造り
	2階建て, 1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(3月14日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4			
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.7歳	最低	65歳	最高	97歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	横山台メディカルクリニック、ひまわり歯科、こぶち整形外科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームはJR古淵駅から徒歩14~5分、相模原市の北部にある。付近はまだ畑の多い地域で雑木林も散在し、田園の面影が残る新興住宅地である。経営は三菱電機ライフサービス株式会社である。三菱電機ライフサービス(株)は三菱電機のソフトの部分を扱う会社で主に6つの事業分野(総合不動産事業、介護サービス事業、フードサービス事業、物販サービス事業、ビジネスサポート事業、リゾートサービス事業)全国に展開し、介護サービス事業ではデイサービス、居宅介護、訪問介護、福祉用具、グループホームなどを展開し、グループホームは全国に13ヶ所あり、今後も支店所在地中心に展開を図って行くことである。桃の顔の”ももちゃん”は徐々にその知名度を増している。日本最大の財閥、スリーダイヤの三菱の信頼性は絶大で、社員の社風も健全、信頼に値するサービスが受けられる。今回、管理者(施設長)の交代があったことで業務の棚卸し(見直し)を行い介護計画を個人の望ましい生活の実現を柱とする考え方で再構築するとともに、将来の介護計画を実現するADL中心のアセスメント固めに着手している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、前述のように管理者(施設長)及び一部職員の変動があり、ワーカーのレベルに多少のギャップを認めたので、ワーカーに対する研修に重点を置いた。特に新管理者は前述のように介護計画を個人の望ましい生活の実現を柱とする考え方で再構築する方針であり、業務の棚卸しをこの研修を通じて徹底を図る点も加味している。具体的には時間の許す限り外部の研修に参加させる他、OJTの研鑽によりワーカーのレベルアップが図れつつある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	②	<p>今回の外部評価については新任の管理者として内部状況を知る良い機会と考えて取り組んだ。自己評価表を各フロアリーダーに渡し、各フロアリーダーはフロア職員の意見を集約してフロアの自己評価表を作成し、これを管理者、各フロアリーダーの3人で纏めた。評価のプロセスでの気付きや評価の指摘事項については改善策を策定し改善に努める予定である。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は第1回目を平成19年4月に実施して以降、2ヶ月に1回のペースで開催を企画したが、10月に管理者の交代があり、メンバーの日程が合わなかったこともあって、少し間が開いていて、至急に次回を企画するよう準備中である。メンバーは現・前自治会長、民生委員、入居者本人、ご家族、ホーム関係者でありオブザーバーとして地域包括支援センターの職員が加わっている。今までの議題はグループホーム及び認知症についてのご紹介が主なものであるが、今回の外部評価の結果も次回に報告して行くことにしている。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は比較的良く訪問してくれている。ご利用者さんの日頃の様子、健康状態については来訪時に充分お話するようにしている。また特に変化があった場合には即刻お電話でお知らせし、ご相談するようにしている。ご家族でお昼の食事準備にボランティアで来てくれている人がいる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご近所のお付き合いでは、①自治会に加入し、自治会行事に積極的に参加している。②近所の小学校と交流があり、体験学習でホームを訪れてくれたり、運動会に招待してくれたりと、小学生が集めたジュース缶のプルトップ集めでたまったお金で車イスの寄贈を受けたりと良い関係にある。地域包括支援センター中心で大野北地域ネア会議(ケアマネ、ボランティア団体、民生委員など30名位の集まり)でグループホームの話をして欲しいと頼まれ、講師をし、以降この会のメンバーとなって地域の情報を得ている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。	○	今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行って行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議において理念を共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組む。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流並びに地域行事への参加により交流を図っている。小学生が集めたジュース缶のブルトップ集めでたまったお金で車イスの寄贈を受けたりと良い関係にある。地域包括支援センター中心で大野北地域ケア会議(ケアマネ、ボランティア団体、民生委員など30名位の集まり)でグループホームの話しをして欲しいと頼まれ、講師をし、以降この会のメンバーとなって地域の情報を得ている。	○	今後はボランティアの受け入れを増やすことにより、さらに地域と交流を深めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価については新任の管理者として内部状況を知る良い機会と考えて取り組んだ。自己評価表を各フロアリーダーに渡し、各フロアリーダーはフロア職員の意見を集約してフロアの自己評価表を作成し、これを管理者、各フロアリーダーの3人で纏めた。1年に1回の自己評価及び外部評価により、実施する意義をよく理解し、業務の棚卸を行い、年間の活動に取り組んでいる。		今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を平成19年4月に実施して以降、2ヶ月に1回のペースで開催を企画したが、10月に管理者の交代があり、メンバーの日程が合わなかったこともあって、少し間が開いていて、至急に次回を企画するよう準備中である。	○	運営推進会議において報告や話し合いを行い、その結果をサービス向上に活かしていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行うことで、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。		市担当者との関係を密にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者さんの日頃の様子、健康状態については来訪時に充分お話しするようにしている。また特に変化があった場合には即刻お電話でお知らせし、ご相談するようにしている。家族懇談会も活用している。		現在の支援を継続する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。		家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聞く機会を設けている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施している。		研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施していく。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部研修においては計画をたて、スタッフ全員受講できるように進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講している。本社主催の階層別研修にスタッフを派遣するようしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行っていない。	○	地域の同業者との交流の機会を設ける。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているものの、サービス利用前にスタッフや他利用者と交流を行うことは実施していない。	○	サービス利用前の日中の時間帯にスタッフや他利用者と交流する場を設ける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で本人に確認しながら一人ひとりに可能な範囲の生活行為(掃除、買い物、調理など)をともに行うことで生活を築いている。様々な生活行為や趣味・特技をともに行うことの中から知恵や経験を学び、支えあう関係を築いていくよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伝えられる方からは直接伺っている。難しい方からはそれまでの生活習慣などから推測し対応している。またご家族からも意見をいただいている。一日の流れの中で少しでも個別対応できる時間をとり、ゆっくりと話を聞くように努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続して行く。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。	○	計画性を持って介護計画書の作成の時間を位置づける。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。		現在の支援を継続する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得のもと適切な医療が受けられるよう医師との連携に努めている。(月二回の往診・緊急時の連絡体制の確保)	○	24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行っている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化におけるかかりつけ医の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。		現在の支援を継続していく
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉を使うように心がけている。例えばトイレにお誘いする時は他の方に聞こえないように耳元で声かけを行っている。またスタッフ間の引継ぎにおいても名前ではなく、居室番号にて伝達している。不適切な対応があれば、スタッフ間で注意しあえるような環境づくりをしていく。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を心がけているが、スタッフの勤務体制・時間などから対応困難なケースもあるので、スタッフの採用(パート社員)を進め、個別の対応の時間について柔軟に対応できるように推進する。		状況に沿って進める。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方ができる内容のお手伝いをスタッフと一緒にいただいている。食事中はCDを掛けゆったりと召し上がっていただける環境作りをしている。食事はおいしいと好評である。		現在の支援を継続する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人に希望を伺いながら週3回程度入っていただいているが、時間帯についてはスタッフの人数が多い日中帯になる。スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるように推進する。		状況に沿って進める。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにおいて本人の生活スタイルを把握し、能力を活かした生活行為(掃除・調理・ごみ捨て・新聞とり等)の継続や楽しみとしての活動(編み物・卓球・剣道の素振り等)を支援している。家庭菜園での作物の栽培や収穫の喜びを支援していく。		状況に沿って進める。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物等の支援を心がけているが、スタッフの人員や予定などにより柔軟な対応ができない場合もある。スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるように推進する。		状況に沿って進める。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯の玄関の施錠は行っておらず、見守りや付き添いにて対応をしている。		現在の支援を継続していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定にまでは至っていない。また、防災備蓄品については入れ替え途中であり、早期の備蓄を進めている。		運営推進会議等を活用して、地域の自治会との災害時の協働体制を検討していく。また、防災備蓄倉庫の設置を計画している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食形態・水分量など一人ひとり個別に検討し、支援を実行している。現在の支援を継続していくとともに、医療との連携の中で栄養についても継続的に確認し助言をもらっていく。	○	現在の支援を継続していくとともに、医療との連携の中で栄養についても継続的に確認し助言をもらっていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に配慮するとともに、季節の飾り物や手作りカレンダー、花を置くことで心地よい空間をつくることに取り組んでいる。		現在の取り組みを継続する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の調度品は、使い慣れた物等すべて自由に持ち込んでいただいている。		現在の取り組みを継続する。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい
(ユニット名)	1丁目
所在地 (県・市町村名)	229-0003 相模原市東淵野辺1-22-14
記入者名 (管理者)	足立俊彦
記入日	平成20年3月14日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。	<input type="radio"/>	今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議において理念を共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。	<input type="radio"/>	新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の家族への説明及び家族会、運営推進会議にて理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/>	理念の実践として家族との外出や外泊及び地域行事への積極的参加を進める。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	スタッフ全員が自ら挨拶を励行することにより隣近所との日常的つきあいを実践している。 また近所の方よりプランター園芸の指導をいただいている。	<input type="radio"/>	日常の散歩や買い物を通じてのふれあいを行うことにより交流を深めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流並びに地域行事への参加により交流を図っている。	<input type="radio"/>	今後はボランティアの受け入れを増やすことにより、さらに地域と交流を深めていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の身体状況やスタッフの人員不足により現時点での取り組みができていない。	—	—
---	--	--	---	---

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回の自己評価及び外部評価により、実施する意義をよく理解し、業務の棚卸を行い、年間の活動に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を平成19年4月に実施して以来、2ヶ月に1回のペースで開催を企画したが、10月に管理者の交代があり、メンバーの日程が合わなかったこともあって、少し間が開いていて、至急に次回を企画するよう準備中である。	<input type="radio"/>	運営推進会議において報告や話し合いを行い、その結果をサービス向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行うことで、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。	<input type="radio"/>	市担当者との関係を蜜にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去において制度活用の支援は行っているもののスタッフ全員で学ぶ機会はできていない。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、成年後見制度について学ぶことにより必要な支援ができるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員で学ぶ機会はできていないが、平日頃から虐待防止への意識付けは行っている。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、高齢者虐待防止関連法について学ぶことによりさらなる防止に努める。

項目

取り組みの事実  
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容  
(すでに取り組んでいることも含む)

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に十分説明を行い、理解・納得を得られている。	<input type="radio"/>	現在の説明を継続する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	入居者懇談会の開催により意見・不満・苦情を聞く機会を設ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族懇談会及び電話、来訪時においてそれぞれについて報告を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聞く機会を設ける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・スタッフ・ユニットミーティングを各々月一回開催し、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	<input type="radio"/>	会社幹部との運営会議を開催し、左記ミーティングでの意見・提案を反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの休憩時間を利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。	<input type="radio"/>	人手がより必要な10:00～15:00の時簡帯のスタッフの募集を進めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施している。	<input type="radio"/>	研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一部研修においては計画をたて、スタッフ全員受講できるよう進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講している。</p>	<input type="radio"/>	<p>本社主催の階層別研修にスタッフを派遣する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行えていない。</p>	<input type="radio"/>	<p>地域の同業者との交流の機会を設ける。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会や社内レクリエーションを定期的に行い、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	<input type="radio"/>	<p>3ヶ月に一度の親睦会と年一回の社内レクリエーションを継続して実施する。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給・資格手当・特別手当などの制度を設け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>昇給・資格手当・特別手当の制度を今後も継続して運用していく。</p>

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、本人をよく知り、希望を聴く機会をつくっている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、家族の状況、希望をよく聴く機会をつくっている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の話をよく聞いた上で、適切なサービス利用の選択が可能ないように情報を提供している。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているものの、サービス利用前にスタッフや他利用者との交流を行うことは実施していない。	<input type="radio"/>	サービス利用前の日中の時間帯にスタッフや他利用者との交流する場を設ける。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で本人に確認しながら一人ひとりに可能な範囲の生活行為(掃除、買い物、調理など)をともに行うことで生活を築いている。	<input type="radio"/>	様々な生活行為や趣味・特技をともに行うことから知恵や経験を学び、支えあう関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族ボランティアによる生活行為(調理など)の支援や各種イベント(誕生会等)への参加により一緒に本人を支えていく環境を整えている。	<input type="radio"/>	ケアプランにより本人の生活目標を明確にし、それを共有することで、ともに本人を支えていく関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係をよくお聞きした上で、地域密着型サービスとしてのよい距離感での関係を支援している。(誕生会には家族の予定を調整したうえでできるだけ参加いただきお祝いしている。)	<input type="radio"/>	面会に来ることができない家族に対して定期的に近況を報告し、本人との関係が途切れないように支援する。(手紙・電話・通信物等)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊(法事・墓参り・初詣等)には特に制限はなく、積極的に支援している。また、手紙などの投函の支援も行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが入居者同士の関係を理解し、コミュニケーションが入居者同士で可能な方・スタッフが間に入ることで他入居者と可能となる方・スタッフが中心となり可能となる方、それぞれに必要な配慮を行っている。また、楽しく食事ができるように食席の配慮も行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在サービス利用終了後に継続的なお付き合いをしている方はいない。	—	—

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伝えられる方からは直接伺っている。難しい方からはそれまでの生活習慣などから推測し対応している。またご家族からも意見をいただいている。	<input type="radio"/>	一日の流れの中で少しでも個別対応できる時間をとり、ゆっくりと話を聞くようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを細かく行い、さらに入居後も少しずつ本人やご家族からいろいろな話をお聞きし、把握に努めている。	<input type="radio"/>	入居されるフロアのスタッフは入居後に更に情報を把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子を観察し、入居時のアセスメントとの違いを確認しながら、現在の本人の様子を把握している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。	<input type="radio"/>	その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。	<input type="radio"/>	計画性を持って介護計画書の作成の時間を位置づける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別(ケース)記録や連絡帳に記入して情報の共有をしながらケアの統一を図っているが、タイムリーな介護計画の見直しには至っていない。	<input type="radio"/>	適切な介護計画の見直しを実施していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。	<input type="radio"/> 現在の支援を継続する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や定期的防災訓練、近隣の小中学校との交流など意向や必要性に応じた資源の活用を行っている。(三味線・七夕・運動会・クリスマス等)	<input type="radio"/> 様々な形での地域のボランティアを積極的に受け入れていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの話し合いにて入居のための支援を行っている。	<input type="radio"/> 現在の支援を継続する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状として地域包括支援センターとの協働は行われていない。	_____
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得のもと適切な医療が受けられるよう医師との連携に努めている。(月二回の往診・緊急時の連絡体制の確保)	<input type="radio"/> 24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行っている。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在認知症の専門医との連携はとれていない。	<input type="radio"/> 24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行っている。
	○看護職との協働		



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在地域の看護職との連携はとれていない。	—	—
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在のところ連携はとれていない。	○	在宅療養支援診療所を通じて連携をとっていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化におけるかかりつけ医の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。	○	現在の支援を継続していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの現状における体制について家族に十分に理解をいただき、可能な範囲での必要な支援をかかりつけ医の意見を聞きつつ、行っている。	○	在宅療養支援診療所スタッフとの連携によりチームとしての機能を強化していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの繰り返しの話し合いにて入居者の円滑な住み替えに対する支援を行っている。	○	現在の支援を継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	「ご本人の希望を伺う」という方針を定めて、例えばお風呂やトイレ、		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉を使いよつに心かけている。例えばトイレにお誘いする時は他の方に聞こえないように耳元で声かけを行っている。またスタッフ間の引継ぎにおいても名前ではなく、居室番号にて伝達している。	<input type="radio"/>	不適切な対応の時間がまだまだあるので、スタッフ間で注意しあえるような環境づくりをしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お手伝い等をお願いする時には伺いながらすすめている。また、理解できるように声の高さ、言葉を選んで声かけをしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続し、スタッフ自身心に余裕を持って対応していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った支援を心がけているが、スタッフの勤務体制・時間などからどうしてもスタッフ側の都合を優先してしまうことが多いように感じている。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め、個別の対応の時間について柔軟に対応できるようにする。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	T.P.Oに合わせたその人らしい洋服のコーディネートをしたり、行事にはマニキュア等お化粧をし、おしゃれをしていただいている。また、ご本人・ご家族の希望で月1回の訪問理美容利用している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方ができる内容のお手伝いをスタッフと一緒にしていただいている。食事中はCDを掛けゆったりと召し上がっていただける環境作りをしている。食事はおいしいと好評である。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の状況に合わせて、本人管理で召し上がっていただいている方とお預かりしている方がいらっしゃるが、希望があればその都度召し上がっていただいている。また、買い物と一緒に行き、おやつを選んでいただいている。お酒・たばこをのむ方は現在いらっしゃらない。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿・排便のチェック表を毎日つけており、それによって排泄のパターンや習慣などを把握し、失禁等を少なくする支援をしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続し、かつ失敗した後の声かけには十分の配慮を行う。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人に希望を伺いながら週3回程度入っていただいているが、時間帯についてはスタッフの人数が多い日中帯になってしまっている。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるようにする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温・衣類・布団の調整などに気をつけて対応している。また、布団干し、シーツ交換も定期的に行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにおいて本人の生活スタイルを把握し、能力を活かした生活行為(掃除・調理・ゴミ捨て・新聞とり等)の継続や楽しみとしての活動(編み物・卓球・剣道の素振り等)を支援しているが、すべての入居者へのきめ細かさが十分ではない。	<input type="radio"/>	家庭菜園での作物の栽培や収穫の喜びを支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できるだけ入居前の生活スタイルに合わせた支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物等の支援を心がけているが、スタッフの人員や予定などにより柔軟な対応ができない状況もある。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出支援は積極的に行っている。スタッフでの外出支援は、カラオケ・外食・花見等を行っているが、スタッフ人員の状況により不十分な場合も発生している。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるようにする。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、申し出により利用いただいております。手紙についても各々の個別の方法にて支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は制限を設けておらず、本人の居室やフロアを自由に利用していただいている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為をせずに本人の安全の見守りに重点をおいてケアを行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯の玄関の施錠は行っておらず、見守りや付き添いにて対応をしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の定時の巡回や日中帯のフロアの見守りの体制を維持し、安全に配慮している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握して上で、危険度の状況を考え、物品の置き場所などに配慮を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険予知や防災訓練など状況に応じた判断ができるよう研修や訓練を継続している。また、服薬については日付・服用時間・名前を復唱した上で飲んでいただいている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回の普通救命講習の受講と年2回の防災訓練を全員に義務付けている。また、火災受診盤の操作方法を全スタッフが理解しているようにしている。	<input type="radio"/>	現在の訓練を維持し、さらに外部講師による緊急時対応のための研修や消防署との合同訓練を企画していく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定は結べていない。また、防災備蓄品についても入れ替えが完了しておらず、現在備蓄できていない。	<input type="radio"/>	地域の自治会との災害時の協働体制を検討していく。また、防災備蓄倉庫の設置を計画している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの個別のリスクについては、身体状況の変化に合わせて現在の身体状況とともに家族に説明し、その中でも本人の生活を尊重できるような支援を検討している。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、チームとしての対応策を考えていく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕の申し送りや連絡ノートにて確実な情報伝達と継続した対応を実施している。	<input type="radio"/>	グループホーム内の情報の共有だけでなく、医療との連携を強化し、さらに適切な対応に結び付けていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての管理表を作成し、薬剤の把握と誤薬の防止に努めているが、服用しているすべての薬剤についての理解はできていない。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、薬剤についての研修を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬剤のみに頼らない便秘防止策(水分・繊維質・ヨーグルト・牛乳・ラジオ体操・屋内歩行運動等)を個別に検討し、取り組んでいるが、原因や影響についての理解は十分とはいえない。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、便秘についての研修を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方に応じた一人ひとり個別の口腔ケアを毎食後に実施している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、さらに口腔ケアの研修をおこなっていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食形態・水分量など一人ひとり個別に検討し、支援を実行している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、医療との連携の中で栄養についても継続的に確認し助言をもらっていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備し、法人内の独自の対応方法を取り決め、全員が実行できるよう周知している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、医療との連携をの中で助言をもらったり、研修を開催したりしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止のマニュアルを常備し、食品の管理や消毒の方法などを周知している。	<input type="radio"/>	管理栄養士や医療関係者による研修を年1回行っていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにベンチや花を設置し、親しみやすい環境をつくりだしている。またスロープやバリアフリーの建築上の取り組みも行っている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に配慮するとともに、季節の飾り物や手作りカレンダー、花を置くことで心地よい空間をつくることに取り組んでいる。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングとソファ、玄関のベンチなどいくつかの別々に過ごせる空間をつくっている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の調度品は、使い慣れた物等すべて自由に持ち込んでいただいている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>窓明けや換気扇を利用した換気やエアコンの温度調整や濡れタオルによる湿度調整も行っている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、自立支援のための基本構造は整っているが、細部の手すりなど個別の状況に応じた工夫に検討が必要となっている。</p>	○	<p>入居者の状態に合わせた自立支援の工夫を検討していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>掲示や案内と繰り返しの説明によって自立支援の工夫をしている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>駐車場にてバーベキューを行うなど、季節をよって楽しめる工夫をしている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自治会・小中学校との交流としての地域行事へ参加している。

日々の買い物・散歩等での外出の機会を多くし、地域の方々ともなじみの関係ができているため温かい言葉をかけてくださっている。

安全かつ安心な生活を過ごしていただいていると思われる。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい 2丁目
所在地 (県・市町村名)	229-0003 相模原市東淵野辺1-22-14
記入者名 (管理者)	足立俊彦
記入日	平成20年3月14日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	特に高齢者の生活を支える事業者として、地域との共生を図ることを念頭に理念をつくりあげている。	<input type="radio"/>	今後も地域との共生について更に広め(深め)て地域に根ざしたホームの運営を行っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議において理念を共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。	<input type="radio"/>	新しいスタッフを含め、さらなる理念の実践に向けて共有化に取り組む。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の家族への説明及び家族会、運営推進会議にて理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="radio"/>	理念の実践として家族との外出や外泊及び地域行事への積極的参加を進める。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	スタッフ全員が自ら挨拶を励行することにより隣近所との日常的つきあいを実践している。 また近所の方よりプランター園芸の指導をいただいている。	<input type="radio"/>	日常の散歩や買い物を通じてのふれあいを行うことにより交流を深めていく。(近隣のお年よりも散歩途中での声かけを楽しみにされている。)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入や小中学校との交流(運動会・合唱コンクール・芋煮会)並びに地域行事(盆踊り・どんと焼き)への参加により交流を図っている。	<input type="radio"/>	今後はボランティアの受け入れを増やすことにより、さらに地域と交流を深めていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者の身体状況やスタッフの人員不足により現時点での取り組みができていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回の自己評価及び外部評価により、実施する意義をよく理解し、業務の棚卸を行い、年間の活動に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	今後も理解を深め、継続して取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を平成19年4月に実施して以来、2ヶ月に1回のペースで開催を企画したが、10月に管理者の交代があり、メンバーの日程が合わなかったこともあって、少し間が開いていて、至急に次回を企画するよう準備中である。	<input type="radio"/>	運営推進会議において報告や話し合いを行い、その結果をサービス向上に活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所として報告・相談を行うことで、サービスの質の向上のための助言・指導は受けているが、市担当者のグループホームへの来訪は実現していない。	<input type="radio"/>	市担当者との関係を蜜にし、来訪する機会をつくり現場を見てもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去において制度活用の支援は行っているもののスタッフ全員で学ぶ機会はできていない。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、成年後見制度について学ぶことにより必要な支援ができるようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員で学ぶ機会はできていないが、平日頃から虐待防止への意識付けは行っている。	<input type="radio"/>	法人内外の研修の機会を持ち、高齢者虐待防止関連法について学ぶことによりさらなる防止に努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を基に十分説明を行い、理解・納得を得られている。	<input type="radio"/>	現在の説明を継続する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	入居者懇談会の開催により意見・不満・苦情を聞く機会を設ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族懇談会及び電話、FAX、来訪時においてそれぞれについて報告を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理窓口の周知及び運営推進会議への参加、発言の機会を設けている。	<input type="radio"/>	家族懇談会の開催により意見・不満・苦情を聞く機会を設ける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・スタッフ・ユニットミーティングを各々月一回開催し、スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	<input type="radio"/>	会社幹部との運営会議を開催し、左記ミーティングでの意見・提案を反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの休憩時間を利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。	<input type="radio"/>	人手がより必要な10:00～15:00の時簡帯のスタッフの募集を進めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現スタッフへは親睦会・資格取得支援・研修会等を定期的実施し、新スタッフへは現有スタッフによるマンツーマンのOJT教育を実施している。	<input type="radio"/>	研修受講者によるグループホーム内スタッフへの水平展開のための伝達研修を実施する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一部研修においては計画をたて、スタッフ全員受講できるよう進めているが、スケジュール未定のものについては都度受講している。</p>	<input type="radio"/>	<p>本社主催の階層別研修にスタッフを派遣する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の他グループホームとの勉強会や交流は実施しているが、地域の同業者との交流は行えていない。</p>	<input type="radio"/>	<p>地域の同業者との交流の機会を設ける。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会や社内レクリエーションを定期的に行い、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	<input type="radio"/>	<p>3ヶ月に一度の親睦会と年一回の社内レクリエーションを継続して実施する。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>昇給・資格手当・特別手当などの制度を設け、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>	<input type="radio"/>	<p>昇給・資格手当・特別手当の制度を今後も継続して運用していく。</p>

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、本人をよく知り、希望を聴く機会をつくっている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回相談・施設見学・事前面接1～2回を実施し、家族の状況、希望をよく聴く機会をつくっている。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>
<p>項 目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(○印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族の話をよく聞いた上で、適切なサービス利用の選択が可能ないように情報を提供している。</p>	<input type="radio"/>	<p>現在の支援を継続する。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にゆっくり話を聞いたり、本人に見学してもらうことは行っているものの、サービス利用前にスタッフや他利用者との交流を行うことは実施していない。	<input type="radio"/>	サービス利用前の日中の時間帯にスタッフや他利用者との交流する場を設ける。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の中で本人に確認しながら一人ひとりに可能な範囲の生活行為(掃除、買い物、調理など)をともに行うことで生活を築いている。	<input type="radio"/>	様々な生活行為や趣味・特技をともに行うことの中から知恵や経験を学び、支えあう関係を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族ボランティアによる生活行為(調理など)の支援や各種イベント(誕生会等)への参加により一緒に本人を支えていく環境を整えている。	<input type="radio"/>	ケアプランにより本人の生活目標を明確にし、それを共有することで、ともに本人を支えていく関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係をよくお聞きした上で、地域密着型サービスとしてのよい距離感での関係を支援している。(誕生会には家族の予定を調整したうえでできるだけ参加いただきお祝いしている。)	<input type="radio"/>	面会に来ることができない家族に対して定期的に近況を報告し、本人との関係が途切れないように支援する。(手紙・電話・通信物等)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊(法事・墓参り・初詣等)には特に制限はなく、積極的に支援している。また、手紙などの投函の支援も行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが入居者同士の関係を理解し、コミュニケーションが入居者同士で可能な方・スタッフが間に入ることで他入居者と可能となる方・スタッフが中心となり可能となる方、それぞれに必要な配慮を行っている。また、楽しく食事ができるように食席の配慮も行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続する。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在サービス利用終了後に継続的なお付き合いをしている方はいない。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントにて行っている。入居後は月1回のミーティングでスタッフ間で話し合うことはあるが、直接入居者の方から聞くことは少ない。	○	一日の流れの中で少しでも個別対応できる時間をとり、ゆっくりと話を聞くようにする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談におけるアセスメントにて把握し、その情報は1F2のスタッフにて共有している。	○	入居されるフロアのスタッフは入居後に更に情報を把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子を観察し、入居時のアセスメントとの違いを確認しながら、現在の本人の様子を把握している。	○	現在の支援を継続する。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に介護計画を作成している。	○	その方らしい生活を反映した介護計画作成を確実に継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に対してはその都度話し合いを行い、必要に応じて家族とも相談し対応を行っているが、その内容をリアルタイムで介護計画に反映できていない。	○	計画性を持って介護計画書の作成の時間を位置づける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別(ケース)記録や連絡帳に記入して情報の共有をしながらケアの統一を図っているが、タイムリーな介護計画の見直しには至っていない。	○	適切な介護計画の見直しを実施していく。



3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉用具をはじめとして、母体法人の機能を活かした支援を行っている。	<input type="radio"/> 現在の支援を継続する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や定期的防災訓練、近隣の小中学校との交流など意向や必要性に応じた資源の活用を行っている。(三味線・七夕・運動会・クリスマス等)	<input type="radio"/> 様々な形での地域のボランティアを積極的に受け入れていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの話し合いにて入居のための支援を行っている。	<input type="radio"/> 現在の支援を継続する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状として地域包括支援センターとの協働は行われていない。	—
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得のもと適切な医療が受けられるよう医師との連携に努めている。(月二回の往診・緊急時の連絡体制の確保)	<input type="radio"/> 24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行っている。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在認知症の専門医との連携はとれていない。	<input type="radio"/> 24時間体制の在宅療養支援診療所との連携を行っている。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在地域の看護職との連携はとれていない。	—	—
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在のところ連携はとれていない。	○	在宅療養支援診療所を通じて連携をとっていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化におけるかかりつけ医の方針や家族の意向を確認し、話し合いを行うことで今後の方向性を決定している。	○	現在の支援を継続していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの現状における体制について家族に十分に理解をいただき、可能な範囲での必要な支援をかかりつけ医の意見を聞きつつ、行っている。	○	在宅療養支援診療所スタッフとの連携によりチームとしての機能を強化していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特別養護老人ホーム・老人保健施設・有料老人ホームとの繰り返しの話し合いにて入居者の円滑な住み替えに対する支援を行っている。	○	現在の支援を継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方に対するスタッフ間の話はなるべく小さな声ですることや相手の立場に立って対応するように心がけている。	<input type="radio"/>	不適切な対応の時間がまだまだあるので、スタッフ間で注意しあえるような環境づくりをしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お手伝い等をお願いする時には伺いながらすすめている。スタッフ本意ではなく、入居者主体のケアを行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続し、スタッフ自身心に余裕を持って対応していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても一日の流れの中でスタッフ側の一方的なものになってしまうこともあるが、何か行動する場合は必ず入居者の意見を取り入れている。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め、個別の対応の時間について柔軟に対応できるようにする。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は月に1回訪問理美容を利用している。地域の行事に参加したり、誕生会の時にはおしゃれを楽しんでもらっている。	<input type="radio"/>	訪問理美容に満足していない入居者の方もいるので個人の希望するお店に行けるようにしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日3回の食事は管理栄養士の作ったメニューに沿って調理している。入居者一人ひとりの得意分野に合わせて手伝っていただいている。片付けも同様である。月に一度外食(ランチ・おやつ)等に行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の状況に合わせて、本人管理で召し上がっていただいている方とお預かりしている方がいらっしゃるが、希望があればその都度召し上がっていただいている。また、買い物と一緒に行き、おやつを選んでいただいている。お酒・たばこをのむ方は現在いらっしゃらない。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿・排便のチェック表を毎日つけており、それによって排泄のパターンや習慣などを把握し、失禁等を少なくする支援をしている。落ち着きがなかったり、トイレを探しているような時にはスタッフからの声かけにより誘導している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続し、かつ失敗した後の声かけには十分の配慮を行う。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を予定している。シフトの関係で希望通りには行えない場合もあるが、なるべく希望を考えて支援している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温・衣類・布団の調整などに気をつけて対応している。また、布団干し、シーツ交換も定期的に行っている。夜間よく眠れるよう日中体を動かしたり、散歩したりしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにおいて本人の生活スタイルを把握し、能力を活かした生活行為(掃除・調理・ゴミ捨て・新聞とり等)の継続や楽しみとしての活動(編み物・卓球・剣道の素振り等)を支援しているが、すべての入居者へのきめ細かさが十分ではない。	<input type="radio"/>	家庭菜園での作物の栽培や収穫の喜びを支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できるだけ入居前の生活スタイルに合わせた支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物等の支援を心がけているが、スタッフの人員や予定などにより柔軟な対応ができない状況もある。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出支援は積極的に行っている。スタッフでの外出支援は、カラオケ・外食・花見等を行っているが、スタッフ人員の状況により不十分な場合も発生している。	<input type="radio"/>	スタッフの採用(パート社員)を進め柔軟に対応できるようにする。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、申し出により利用しており、手紙についても各々の個別の方法にて支援を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は制限を設けておらず、本人の居室やフロアを自由に利用していただいている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為をせずに本人の安全の見守りに重点をおいてケアを行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中帯の玄関の施錠は行っておらず、見守りや付き添いにて対応をしている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の定時の巡回や日中帯のフロアの見守りの体制を維持し、安全に配慮している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握して上で、危険度の状況を考え、物品の置き場所などに配慮を行っている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険予知や防災訓練など状況に応じた判断ができるよう研修や訓練を継続している。また、服薬については日付・服用時間・名前を復唱した上で飲んでいただいている。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回の普通救命講習の受講と年2回の防災訓練を全員に義務付けている。また、火災受診盤の操作方法を全スタッフが理解しているようにしている。	<input type="radio"/>	現在の訓練を維持し、さらに外部講師による緊急時対応のための研修や消防署との合同訓練を企画していく。また、スタッフ自身が緊急時対応のマニュアルをもとに普段からイメージトレーニングをしておく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜両方の想定にて防災訓練は定期的に継続しているが、地域との防災協定は結べていない。また、防災備蓄品についても入れ替えが完了しておらず、現在備蓄できていない。	<input type="radio"/>	地域の自治会との災害時の協働体制を検討していく。また、防災備蓄倉庫の設置を計画している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの個別のリスクについては、身体状況の変化に合わせて現在の身体状況とともに家族に説明し、その中でも本人の生活を尊重できるような支援を検討している。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、チームとしての対応策を考えていく。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕の申し送りや連絡ノートにて確実な情報伝達と継続した対応を実施している。	<input type="radio"/>	グループホーム内の情報の共有だけでなく、医療との連携を強化し、さらに適切な対応に結び付けていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての管理表を作成し、薬剤の把握と誤薬の防止に努めているが、服用しているすべての薬剤についての詳細の理解はできていない。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、薬剤についての研修を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬剤のみに頼らない便秘防止策(水分・繊維質・ヨーグルト・牛乳・ラジオ体操・屋内歩行運動等)を個別に検討し、取り組んでいるが、原因や影響についての理解は十分とはいえない。	<input type="radio"/>	医療との連携を強化し、便秘についての研修を行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方に応じた一人ひとり個別の口腔ケアを毎食後に実施している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、さらに口腔ケアの研修をおこなっていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食形態・水分量など一人ひとり個別に検討し、支援を実行している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、医療との連携の中で栄養についても継続的に確認し助言をもらっていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備し、法人内の独自の対応方法を取り決め、全員が実行できるよう周知している。	<input type="radio"/>	現在の支援を継続していくとともに、医療との連携をの中で助言をもらったり、研修を開催したりしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止のマニュアルを常備し、食品の管理や消毒の方法などを周知している。	<input type="radio"/>	管理栄養士や医療関係者による研修を年1回行っていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにベンチや花を設置し、親しみやすい環境をつくりだしている。またスロープやバリアフリーの建築上の取り組みも行っている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に配慮するとともに、季節の飾り物や手作りカレンダー、花を置くことで心地よい空間をつくることに取り組んでいる。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングとソファ、玄関のベンチなどいくつかの別々に過ごせる空間をつくっている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の調度品は、使い慣れた物等すべて自由に持ち込んでいただいている。	<input type="radio"/>	現在の取り組みを継続する。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>窓明けや換気扇を利用した換気やエアコンの温度調整や濡れタオルによる湿度調整も行っている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、自立支援のための基本構造は整っているが、細部の手すりなど個別の状況に応じた工夫に検討が必要となっている。</p>	○	<p>入居者の状態に合わせた自立支援の工夫を検討していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>掲示や案内と繰り返しの説明によって自立支援の工夫をしている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>駐車場にてバーベキューを行うなど、季節をよって楽しめる工夫をしている。</p>	○	<p>現在の取り組みを継続する。</p>



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input checked="" type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

決められた時間の中で入居者一人ひとりに合った対応をするのは難しいところがあります。その中で入居者の方が持っている「力」を十分発揮できる場面を作ること、そして今まで以上に散歩や外食等の外出をする機会を増やし、五感で自然を感じていただきたいと思えます。その流れの中で入居者の方たちと共にスタッフが成長できたらよいと思えます。

入居者・スタッフともに明るく元気に過ごしている。

取り組みとして、活動を取り入れた生活を実施している。